

カルピスを生んだ箕面の偉人

三島海雲

誰もがその味を知っている「カルピス」。創始者の三島海雲氏は故郷の箕面を飛び出し、遥か遠いモンゴルでその原点に出会っていた。「人々を幸福にしたい」というひたむきな思いで歩んだその生涯を紹介する。

貧しかった少年時代と夢に満ちていた青年時代

三島海雲氏は1878年、萱野村(現箕面市)の「教学寺」に生まれた。当時は檀家が少なく、家は貧しかったという。病弱だった海雲氏を母はよく看病し、教育資金のために銭湯まで開業した。「母は私のためにどんなつらいことでも耐えて育ててくれた」と海雲氏は後に語っている。やがて京都の「西本願寺文学寮」を卒業し英語教師となった後、「仏教大学(現龍谷大学)」に編入。そして24歳で中国へ渡った。当時の青年たちにとって、中国は夢を託す憧れの地だったのだ。

中国で貿易雑貨商「日華洋行」を立ち上げた海雲氏は、仕入れに訪れたモンゴルで運命の出会いを果たす。ゲル(左の写真参照)の外に大ガメで蓄えられ

▲モンゴル民族の文化に触れた28歳の三島海雲



▲モンゴル民族の伝統的な移動式住居、ゲル

た、見たことのない白い液体。飲んでみると酸味があつてもおいしく、しかも長旅で弱っていた胃の調子がよくなった。酸乳という羊などの乳を乳酸菌で発酵させたもので、モンゴル民族の大切な栄養源だという。この酸乳が「カルピス」の原点となる。

試行錯誤の末の大ヒットで国民的飲料へ

帰国した海雲氏は会社を設立し、酸乳の研究を重ねた。乳を発酵させたすっぱいクリーム「醍醐味」や脱脂乳を発酵させた「醍醐素」、さらには生きた乳酸菌入りの「ラクトーキャラメル」を発売。好評を得たが、材料調達に難しさやキャラメルの溶けやすさが原因で失敗に終わる。しかし挫折することなく「醍醐素」をおいしく体に良い飲み物へと改良し、ついに「カルピス」を完成させた。甘くて酸っぱい「初恋の味」は発売されるとまたたく間にヒット。誰もが知る国民的飲料へと成長していった。事業が拡大する一方で海雲氏は「国利民福」の精神を掲げ続けた。その意味は、国家の利益と国民の幸福につながる事業を成すこと。1923年の関東大震災では翌日から被災した東京市内をトラックでまわり、人々に冷たい「カルピス」を振る舞った。年に1度、全国の幼稚園・保育園の園児に「カルピス」を贈る「カル



▲1532年、三島吉左衛門の設立した道場が始まりとされる「教学寺」。海雲氏は十三世住職の息子にあたる。境内には海雲氏の偉業を称える記念碑が建つ

海雲氏が亡くなって45年今も生き続ける「カルピス」

海雲氏の人柄をしのげるエピソードがある。ある日突然、本社と東京工場に大量のスイカが届いた。何事かと思えば、海雲氏が食べたスイカのおいしさに感心し「ぜひ我が社の社員にも」と送ったものだったという。アワビの肝のような通好みのものを人に送ることもあった。素晴らしいと思つた物は何でも熱心に人にすすめる性格だったようだ。ほほえましい話だが、そんな気性の持ち主が生涯をかけて人にすすめたかったものはモンゴルで出会った酸乳であり、苦心の末完成した「カルピス」だったことは疑いようがない。

三島海雲氏は1974年、96歳でこの世を去った。「国利民福」を願う心から生まれた「カルピス」は今年の7月7日で発売100周年。その味は世代を越え、国境を越えて世界中で愛されている。

アイデアの宝庫

当時は斬新だった

●ポスターデザイン懸賞



1923年には懸賞金をかけてヨーロッパの美術家からポスターデザインを募り、1,400点以上の作品が集まった。第一次世界大戦後の不況に苦しむ美術家を救済する狙いもあった。3等に入選したオットー・デュンケルスビューラー氏の作品がアイコンに採用され、長らく愛された(1989年まで使用)。

●物議を呼んだ「〇〇の味」



「カルピス」の有名なキャッチフレーズ「初恋の味」。西本願寺文学寮の後輩が発案し1921年から使用されたが、当時は「初恋」という言葉自体はばかられる時代。海雲氏も一度は断つたが、説得されて採用を決めた。世間では当初は反応が分かれたが、またたく間に受け入れられた。

●新聞広告でのPR戦略



ラムネ8銭、牛乳10銭の時代、大瓶1本1円60銭の「カルピス」を売るのは至難の業。そこで海雲氏は新聞広告で4つの本質をPRした。①美味しいこと、②滋養になること、③安心感のあること、そして薄めて飲むのでかえって④経済的であることだ。写真は1919年発売当時のカルピス。

ピスひなまつりプレゼント」も海雲氏が始めたもので、現在も「アサヒ飲料株式会社」のESG活動として受け継がれている。

海雲氏が「実業家の枠を超えた実業家」と言われる理由は、行動の原動力が私欲ではなくいつも人のためであったことにある。その人生哲学には寺院に生まれ、学生時代に学んだ仏教の教えが根付いていた。1962年に海雲氏は、全財産を投じ、学術研究を支援する「三島海雲記念財団」を設立。その際には

「私の得られた財物は、ひとり三島海雲の私するものではない。あげて社会にお返しすべきものである」と語った。

「教学寺」の本堂入り口に飾られた額は、海雲氏の直筆を彫り込んだもの。「水稲山」という山号(寺院の称号)が記されている



海雲氏が生まれた「教学寺」は、箕面市稲にある浄土真宗本願寺派の寺院



取材協力/アサヒ飲料株式会社、教学寺
文/刀林美沙 デザイン/松浦愛梨 写真撮影/西谷月彦 写真提供/アサヒ飲料株式会社

三島海雲の生涯

- 1878年 萱野村(現箕面市)の「教学寺」に生まれる
- 93年 「西本願寺文学寮」に入寮
- 98年 卒業後、英語教師として山口県に赴任
- 1902年 中国に渡る
- 03年 北京で貿易雑貨商「日華洋行」設立
- 04年 軍馬調達のためモンゴル高原に向かう。酸乳、馬乳酒などの発酵乳に出会う
- 15年 中国より帰国
- 16年 「醍醐味合資会社」を設立し「醍醐味」などを発売
- 17年 ラクトー株式会社を設立し「ラクトーキャラメル」を発売
- 19年 7月7日 **カルピス**発売
- 21年 キャッチフレーズ「初恋の味」誕生
- 23年 社名を「カルピス製造株式会社」に変更。関東大震災が起り、カルピスをトラックで配布
- 24年 カルピス製造株式会社 取締役社長に就任
- 25年 カルピス食品工業株式会社 取締役社長に就任
- 28年 カルピス食品工業株式会社 取締役社長に就任
- 32年 カルピス製造株式会社 取締役社長に就任
- 39年 財団法人三島海雲記念財団を設立、会長に就任
- 65年 勲三等瑞宝章を受章
- 70年 カルピス食品工業株式会社 取締役社長を勇退
- 74年 死去。正五位を追贈される

カルピス100周年記念 Information

箕面市立郷土資料館 企画展 「カルピスをつくった人 三島海雲」

期間/6月1日(土)~9月4日(水)
住所/箕面市箕面6-3-1
みのおサンプラザ1号館地下1F
開館時間/10:00~17:00 入館無料
休/木
TEL/072-723-2235



その他の振舞いイベントも各地で開催!詳しくは次ページへ

教学寺 カルピス発売100周年記念法要 法話とカルピスウォーターの振舞い

日時/7月7日(日) 10:00~13:00~
住所/箕面市稲2-6-15(駐車場無)
TEL/072-723-4192

